

イギリスにおける語学研修と河川環境分野についての 国際機関との共同研究



工学部 4 年
加藤 大典
イギリス
2016 年 10 月 2 日～
2017 年 2 月 6 日

渡航概要と内容

今後学生として、また社会人として、国際的に中心となって活躍できる人材へと成長するために今回の渡航を決意しました。

滞在期間 4 ヶ月での目標は大きく分けて 2 つ、英語力の向上と自身の研究内容の発展でした。

英語力の向上に関しては、現地での生活に加え、4 ヶ月間語学学校に通うことで、向上を図りました。

自身の研究内容の発展については、イギリスで開催された日英会議への出席と、現地研究機関への訪問、ワークショップを通して勉強させていただきました。

私は、イギリス南部のブライトンという街で 4 ヶ月間生活していました。

そこにある St.Giles という語学学校に 4 ヶ月通っていました。エージェントを手配してホームステイを斡旋してもらい、ホストファミリーと共に生活しました。

ベースとなる生活は、朝起床して、午前中は語学学校に通い、授業が終わったら自由な時間を過ごしていました。

4 ヶ月の間に日英会議と、現地研究機関への訪問という大きなイベントがあったので、その前後は事前勉強や教授からのフィードバックをこなすことに主に時間を使いました。

ここでは、現地での生活での柱となった①語学学校、②日英会議、③現地研究機関への訪問について話したいと思います。

①語学学校について

先ほども述べたように、ブライトンという街にある St.Giles という語学学校に通っていました。

St.Giles という学校はイギリス発祥の 50 年以上の歴史がある語学学校です。

生徒は、アジア、ヨーロッパ、南米、アフリカなど様々な国から来ていましたが、特に多かったのは、韓国、トルコ、スイス出身の生徒でした。日本の生徒も 10 人ほどいました。

コースは一般英語、ビジネス英語、試験対策などに分かれていましたが、私は一般英語をとりました。

会話を中心とした授業で、listening と speaking の練習が主でした。



写真 St.Giles Brighton 校 ※ホームページより引用

②日英会議について

2016 年 10 月 24 日,25 日にイギリスのウェイマスという地方で開催されました。

1 年に 1 度、日本とイギリスのどちらかの国で開かれる会議で、環境中における化学物質の内分泌かく乱作用における研究を取り扱っています。

この日英共同研究事業は、平成 11 年 3 月から始まり、5 年周期で新しいプロジェクトが打ち出されていて、現在は第 4 期のプロジェクトを行っています。

この日英会議に、私が所属している研究室の田中宏明教授と、井原賢助教授と共に出席しました。

会議では、研究者の方々が各自の研究の報告をしていくというのがメインの流れで、間の時間に来年度以降の会議に関する話し合いや、立食形式でメンバー間での会話を楽しむ時間も設けられました。

私は、発表をひたすら聞くことしかできなかったのですが、合間の時間に、後ほど記述する「現地研究機関への訪問」でお世話になった Andrew Johnson 教授に自己紹介をすることができました。

他にも、普段はお目にかかれなような方々とお話する機会に恵まれました。

③現地研究機関への訪問

先ほど述べた、Andrew Johnson 教授も所属しておられる Centre for Ecology and Hydrology(以下 CEH)に 4 日間訪問し、勉強させていただきました。

現在、教授が現在進めている研究と日本で主に進められている研究との違いについ



写真 Andrew 教授の発表の様子

で話し合い、教授の研究テーマでもある、「河川環境中における化学物質のリスク評価」を日本の河川でも適用できないかを検討しました。短い時間でしたが非常に貴重な経験をさせてもらいました。また、自身の今後の研究の発展にも活かすことができると感じています。また、科学者としての心構えというテーマで4日間様々なお話を聞きました。

科学者として大切なことは、常にデータを見比べること。客観的に、つまり自分の感情を取り除いて、ただ目の前にあるデータを見比べることで仮説を立てていくことが大切だと教わりました。

また、科学とは何か、仮説とは何か。というお話を、カール・ポパーの反証可能性(Falsifiability)を用いて説明してくださりました。

渡航を通じて感じたこと

英語力に関しては、自分がいかに listening と speaking の勉強を怠っていたかを感じました。

逆に、一番成長した部分でもあると言えます。reading や writing に関しては、特によくできている方だと評価されました。

英語の聞き取りに耳が馴染み、会話を自然にできるようになるのに3ヶ月ほどかかったのに4ヶ月の滞在ではまだまだ自分の満足のいくレベルまで達することが出来なかったというのが本音です。今後も継続して勉強を続ける必要があると感じました。

日英の会議では、自分がいかに恵まれた環境にいるかを感じました。

本来、このような会議に出席することは簡単なことではないはずですが、今回、田中教授が私を紹介してくださったおかげで参加することが出来ました。自分が所属する研究室が関わっている事業の規模の大きさを感じ、自分はチャンスに恵まれていると感じました。現地研究機関への訪問を通して、各国によって進めている研究テーマの主流が異なることを感じました。

Andrew 教授が進めている研究はイギリスの河川における化学物質のリスク評価であり、それと似たような研究を進めている人は日本にいるのか尋ねたところ、自分の知る範囲ではないと仰っていました。共同で進めているプロジェクトがある一方でこのような違いが国の間であることを実感しました。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

英語力は今後成長する下地は作れたと感じているので、今後も継続して訓練をしてしっかりと自分のものにしたいと思います。当面の目標は語学試験のスコアですが、将来的にはネイティブスピーカーと自然な会話ができるようなレベルに達したいです。

研究に関しても、「科学者として心得るべきこと」といった、一般論から、河川環境に関

する専門的な知識まで、様々なことを学ぶことが出来ました。それらを今後進めていく自分の研究に活かしながら、少しでも社会の発展に貢献出来る研究を進めたいと思っています。まずは、日英の共同研究の内容に関わるテーマを選択し、自身の卒業研究の指針をしっかりと決めたいと思います。

主な奨学金の使途

*渡航費

*授業料 など